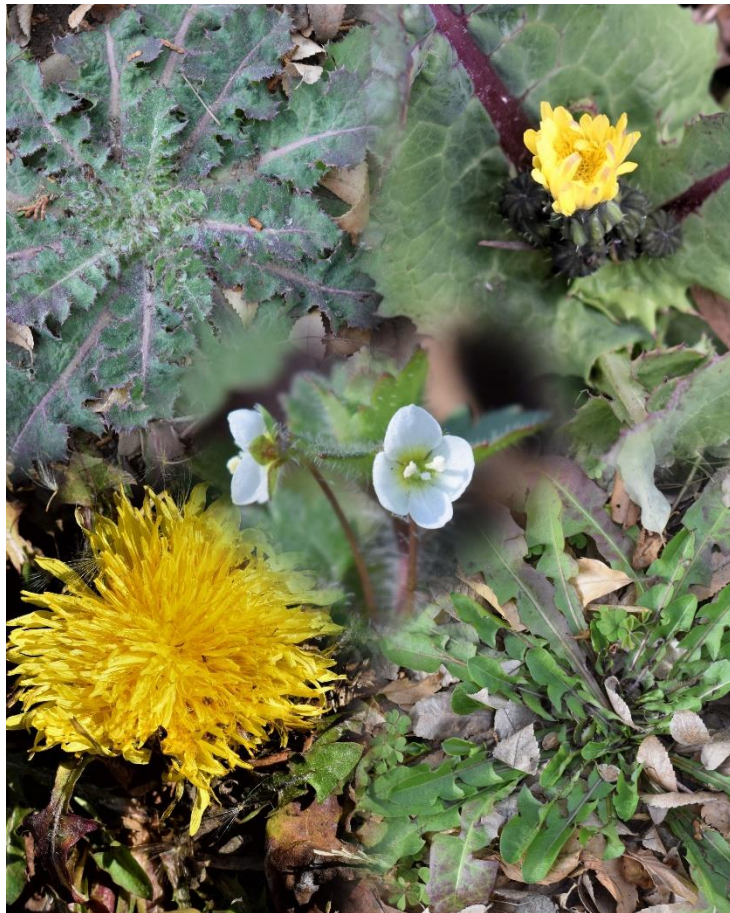


川づくり 清瀬の会

会 誌 第 45 号 2026 年 3 月 発行

発行・編集者 会誌編集委員会



もうすぐ春、空堀川の草や花はどうして寒い冬を耐えているのでしょうか。

撮影・解説：宮澤とよ美
(解説は裏面)

目 次

空堀川工事の検証と改善・・・・・・・・・・・・・・・・・・荒幡 経夫	1
清瀬市コミュニティ・スクール化と川づくり・清瀬の会-私論 柳瀬ゴロー（清瀬第四小学校学校運営協議会会長）	7
柳瀬川・空堀川に棲む生物の紹介 ボラ・・・・・・・・・・・・・・・・・・荒幡 経夫	9
-植栽地だより- 小さな林の物語 <生き物の憩いの場>・・・・宮澤 とよ美	10
令和7年10月から令和8年3月までの活動報告・・・・・・・・荒幡 経夫	13
今後の主な行事予定・ご案内・事務局だより・・・・・・・・荒幡 経夫	18

表紙写真解説

どうぞ親水階段を下りて覗いて見てください。

野草の冬越の方法は、植物の種類や地域の気候によって異なりますが、大体多年草は冬芽やロゼット葉で越冬し、一年草は大方種子で冬を越します。ロゼット葉は、寒風や凍結から身を守るために地面一杯に円形に葉を広げ、光合成をおこないます。その姿がバラの花に似ることからロゼットとよばれます。

ロゼット葉の根は、地中に年々大きくなる根を持ち、増水時河川内の土砂流出を安定させる役割もします。又単子葉植物の根はひげ根でしっかりと幅広く土砂をつかみます。

左上：オニノゲシ 左下：セイヨウダンポが短い茎に花をつけています。
右上：ノゲシ短い茎に花をつけ、寒さをしのぎます。 右下：タンポポ
真ん中の白い花：コゴメイヌフグリ

空堀川工事の検証と改善

荒幡 経夫

空堀川旧川では大雨の時、川からあふれた水が宅地を襲い、浸水被害にあった家々がたくさんあったそうです。

そのため、河川の移設と拡張を計画し、雨量 30 mm に対応した改修工事が実施され、清瀬区間が昭和 55 年に完成しました。

清瀬第四小学校の裏を流れていた旧河川は、せせらぎ公園に改修され今では、小さな小川が流れる公園になっています。

地球温暖化が進み、線状降水帯の発生など異常気象に見舞われることが多くなりました。時代の変化と共に、改修された 30 mm 対応の河川では、大量の雨水を処理することができなくなり、上流の河川では収容しきれなくなった水が溢れ、頻繁に浸水被害を起こすようになりました。

令和元年から武蔵村山や上流での洪水被害を解消するために、河川の拡幅工事・50 mm 対応の工事が、柳瀬川・空堀川の新合流点から始まりました。

この工事では、昭和に造られた落差工の改修も同時に行われています。

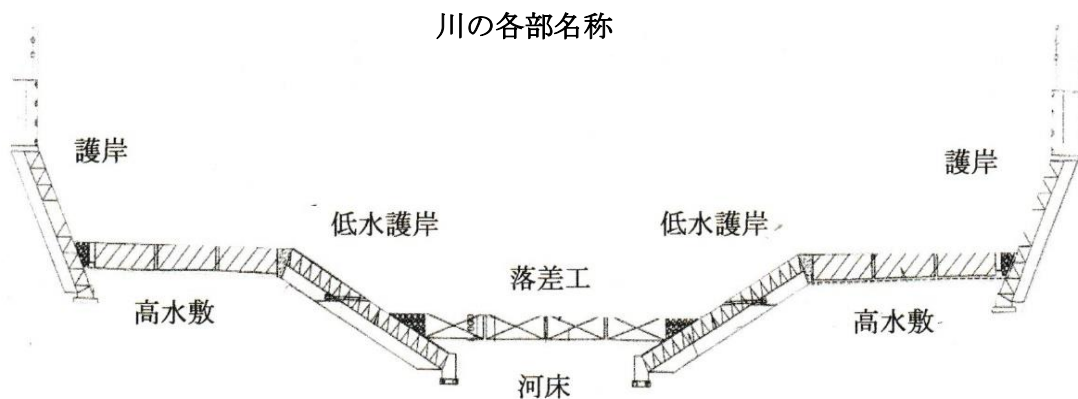
6 年の年月をかけて、新合流点近くの石田橋～西武線の鉄橋そば柳原橋までの区間で工事が完了しました。

今回の一連の工事では、新しい施工方法が取り入れられ落差工の改修・川床の掘削・高水敷の改修などが行われました。

環境や生物多様性を考慮した内容もありますが、残念ながら場所によっては市民が憩える親水性には程遠い内容の物もあります。

今回は、清瀬区間で行われた改修工事について、高水敷・低水護岸・河床・落差工・バンプ工に分けて検証し、併せて要望書として提案することにいたしました。

可能であれば改修・改善して頂きたいのと、ぜひ今後の工事改善の参考にして頂きたいと思います。



高水敷

水が流れる低水路より一段高い所にあります。洪水などで水が増えた時には一時的に水路になる部分です。普段は、動植物の貴重な生息場所となり、人々の憩いの場・教育の場としても利用される場所です。

工事前の高水敷は、土が残されていてクワ・ヤナギなどの樹木や、たくさんの野草が息づいていました。木々は水面に日陰を作り、木の実を付けて魚や鳥たちの餌場・休息の場になっていました。水辺に繁茂したアシや水草類は、昆虫・小魚などの隠れ場や繁殖の場にもなっています。木々の根っこは水辺の土を抱え込み、大雨が降った時も土が流されないように守っていました。



ところが、工事後の高水敷は、コンクリートのブロックが敷き詰められ、ブロックには大きな石が埋め込まれ、所々に大きな穴が開いていて非常に歩きにくく、穴に足を取られる危険な場所になっています。

落差工がある所は、全てが 20～30m に渡って、いろいろな種類のブロックで護床されていて、6年間の長い工事期間でも改善されず、親水性とは程遠い場所になってしまいました。ブロックが敷かれた所は草刈りも実施されないので、実生木や外来種植物が繁茂し、通行ができなくなっている場所もあります。



ブロックで護床された高水敷、歩きにくく危険な場所になっている

落差工を守るために、ブロックで護床した長い高水敷が必要だと説明されましたが、もっと短くしても影響ないように思われます。また、歩きやすく草花が生えやすい素材と構造で造れば、草刈などの管理もやり易く親水性に富んだ高水敷になると思います。

河床

常に水が流れている場所で、低水路とも呼ばれています。

今回の工事では 6 カ所に落差工が造られました。落差工の水が流れ落ちた場所から 20～30m に渡って護床ブロックが敷き詰められています。高水敷の護床に使われたブロックと全く同じもので、大きな石が埋め込まれ穴の開いた構造になっているものです。穴の開いていないブロックもありますが、大きな石が埋め込まれています。非常に歩きづらい河床になっています。



落差工とのつながが悪い落ち口は、水が中央を流れず両端を流れるような結果になっています。落差工の落ち口に 60 cm 位の水溜まりを作って頂きましたが、その影響か 20～30m 先の高水敷の護岸が終わった付近では、護床が盛り上がった状態になり、たくさんの水が流れていない限り常に露出しています。



低水護岸と護床ブロックの間が開いているので両側に水が流れ、下流の護床が隆起

ここの護床ブロックも、こんなに長くなくてもいいように思います。昭和に工事された高水敷・河床の護床ブロックはもっと短く、大雨でも崩れたり洗堀されるような被害はありませんでした。

ブロックをもっと地中に深く埋め込んで、礫が表面を覆うような構造にできなかったのでしょうか。とても生物採集や観察をするために川に入れるような川底ではありません。見るたびに残念な気持ちになる場所です。

低水護岸

洪水や水量が多くなった時に、水流から高水敷を守るためにコンクリートブロックや石などを張り付けて根固めをします。

高水敷の土が崩れないように施工されています。1年目の工事では護岸せずにむき出しの状態でした。2年目からは、30 cm程の石をネットに張り付けて、法面を覆うように敷かれているので、植物が隙間から生えています。落差工の下流 20～30m くらいまでは、軽石素材のような通気性のあるコンクリートブロックで造られていますが、植物は全く生えていません。他に長さ 60 cm×幅 20 cm程の石柱が埋め込まれている場所もあります。

ここも、落差工保護のために長い距離を護岸していますが、もっと短くしても良いように



コンクリートブロックで施工された低水護岸、植物は全く生えません

思います。護岸をしないで土が露出するような状態だと、植物はすぐに生えてきて自然豊かな岸边を形成しますが、洪水のたびに崩れてしまう弱点があります。それを防ぐために、せめて実績のある石をネットに張り付けた護岸を施せば、植物が生えやすい低水護岸を造る事ができると思います。



隙間のある石を張り付けた低水護岸、3年も経つと植物で覆われます

落差工

河川の急勾配を安定させて川底が削られるのを防ぐために、川を横断して造られる構造施設です。

空堀川にはたくさんの生物が棲息しています。アユやオイカワ等、流域を行き来する生物にとっては、大変大事な場所になっています。急流にならないように段差を低く付け、魚が遡上しやすいようになっています。



比較的うまく機能している落差工

渇水期には中心部分を水が流れるように工夫されていて、水の落ち口には水がたまるよう川底が下げられています。

残念ながら、なかなか計画通りにはいかない場所があり、河床でも触れましたが、落差工に流入した水が中央を流れず両サイドに分かれてしまったり、落差工から落ちた水が水溜まりを作らず、盛り上がった中央の護床コンクリートの両サイドに分流してしまい、低水護岸沿いに水路ができている所があります。



水の落ち口の護床ブロックが突出して水流をふさぎ、両サイドに水が分流している

落差工自体は、比較的うまく機能していますが、下流に施工した護床ブロックが、景観を悪くし水の流れを阻害しています。ぜひ改善して頂きたい場所です。

バープ工

川岸から上流に向かって連結した大石を突き出すように置いて、水流を制御する方法です。

石の上流側には堆積物がたまり寄り洲を造り、下流側には水流で掘られた深みを形成します。今回の工事で8基設置されましたが、確認できているのは3基だけです。

施工時の石の埋め方の影響で埋没してしまったようです。

この工法は、最近造られたので効果のほどは定かでなく、これから検証していきたいと思いますが、せっかくの試みなのにまともに機能しているのは2基だけです。

上流側は、礫が堆積し陸地を作っています。下流側は深堀され小さな淵を形成していますが、残念なことに下にある粘土層が露出してしまい粘土が流失しています。



粘土層が掘られてしまったバープ工と埋まってしまったバープ工

まとめ

これから、上流に向かって工事が進められると思います。自然豊かな河川を作るためには、生物の多様性を育み、人々が安全で楽しく接することができる場所でありたいと考えます。ぜひ今後の工事について、過去の工事の反省を踏まえて実施して頂きたいと思い、以下に記すことを要望していきたいと思います。

過去の工事について

- ・不良箇所を改修又は修繕する。

今後の工事について

- ・高水敷・低水護岸・河床に使っている護床ブロックを見直す。
- ・落差工前後のコンクリートで施工する長さを再検討する。
- ・バープ工の施工技術の向上を図る。

清瀬市コミュニティ・スクール化と川づくり・清瀬の会-私論-

柳瀬ゴロー（清瀬第四小学校学校運営協議会会長）

令和7年度より、清瀬市の全公立小中学校が「コミュニティ・スクール」となりました。そもそも「コミュニティ・スクール」とは、どういう仕組みなのか…？

「学校と地域が力を合わせることによって、互いに信頼し合い、それぞれの立場で主体的に地域の子どもたちの成長を支えていく仕組みです。コミュニティ・スクールには、「学校運営協議会」を設置し、教育委員会から任命された保護者や地域の方々が一定の権限と責任をもって学校運営に参画します。 ※令和6年5月1日現在、全国で20,153校（全国の学校のうち、58.7%）がコミュニティ・スクールを導入しています」（清瀬市教育委員会）

坂田篤清瀬市教育長は「地域総がかりで児童・生徒の育成に取り組み、併せて学校を舞台に地域の活性化を推進すること」と仰っており、少子高齢化が進む清瀬市に於いて、大変重要な施策であると思います。令和8年度からはお隣り東村山市もコミュニティ・スクール化し、清瀬市周辺でもこの動きはさらに加速するでしょう。

私が会長を務めている清瀬第四小学校学校運営協議会では、令和7年度の主たる活動として、「関東大震災100年-鎮魂と防災の灯（ともしび）プロジェクト～災害から火災の脅威を学び、”火”から様々な感覚を巡らせる」（手持ち花火）、「見上げてごらん…星空をみよう会」を、保護者の皆様、地域の皆様ご協力の元、開催しました。他の清瀬市内小中学校を見ても、図書室解放や、フリーマーケット、防災フェアなど、地域の特性を生かした取り組みをし、特にコミュニティ・スクール先進校である清瀬第六小学校、清瀬第七小学校ではかなり活発です。

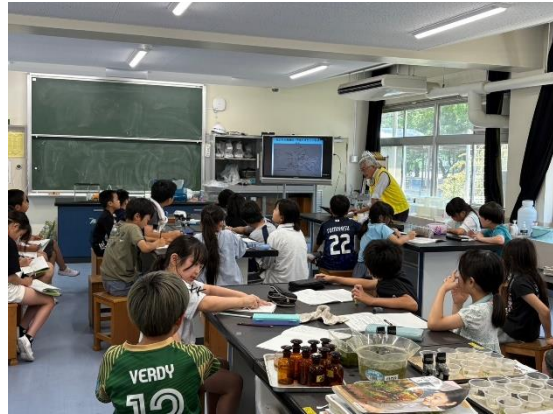


前置きが長くなりましたが、川づくり・清瀬の会は令和7年度の活動でも、清瀬第四小学校、清明小学校、清瀬小学校の学習サポートを実施してきました。清瀬市に於ける柳瀬川・空堀川は貴重な自然です。川づくり・清瀬の会は、日々清掃活動や動植物の観察、水質調査などでスキルを積み上げてきました。今後も可能な限り、清瀬市の児童・生徒たちに寄り添う活動を展開する方針で、清瀬市に於けるコミュニティ・スクールの一助になりたいという気持ちは強いです。柳瀬川・空堀川を守り、次世代を担う子どもたちに川の魅力を伝えるため、会員の皆様のさらなるご支援ご協力が不可欠です。また「新たな仲間」も必要です。

今後ともよろしくお願いいたします。私も引き続き、川づくり・清瀬の会と学校との「架け橋」として尽力する所存です。



柳瀬川で「ガサガサ体験」、晴明小学校生徒たちと一緒に、手網を使って生物採集を実施しました。



空堀川で採集した生物の解説を、清瀬第四小学校理科室でモニターを使って実施しました。



清瀬どろんこ保育園の園児たちが、柳瀬川の川岸で「ふれあい体験」を楽しみました。

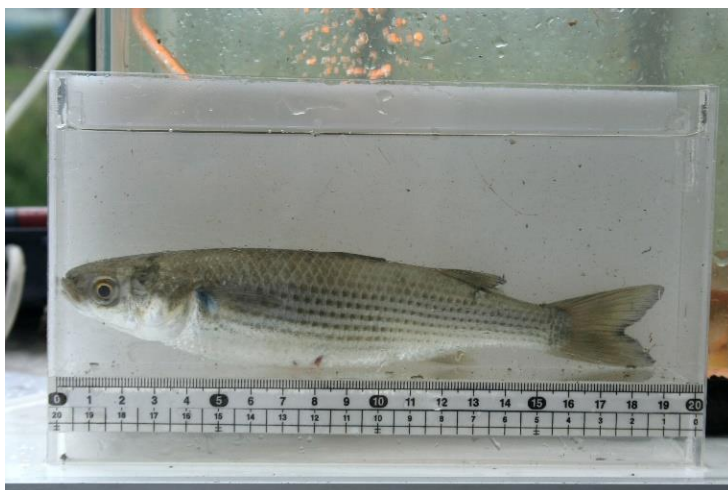


園児たちは、一人として怖がる様子もなく、水槽の中で泳いでいる魚やエビを手のにのせて、観察しました。

柳瀬川・空堀川に棲む生物の紹介

荒幡 経夫

ボラ



ボラ目ボラ科に分類され、北海道以南の全国、温熱帯地域の全世界に分布しています。内湾や河口付近で水面を飛び跳ねている様子をよく見かけます。

海水魚ですが淡水域でも生息できる調節機能を備えた魚で、15 cm前後の幼魚の時期に川を上ってくることがあり、川面を覆いつくすほどの大きな群れを作ります。

藻類や底生に棲む生物を食べています。餌を砂泥ごと食べているので、胃袋の一部がそろばん玉のような形をした筋肉質で分厚い構造になっています。

産卵は南方海域の沖合で冬の時期に行われ、ふ化した稚魚は黒潮に乗って日本沿岸に流れてきます。卵巣はカラスミの原料になります。

出世魚として有名で、2～3 cmの時期をハク、少し大きくなって5～10 cmをオボコ、柳瀬川を上ってくる頃の20 cmほどをイナ、3年以上たった40 cm位までをボラ、60 cmを超えるほどになるとトドと呼びます。

何故、海水魚が海から遠く離れた柳瀬川で見つかったのか疑問に思われると思いますが、私たちがボラを清瀬で確認したのは、ここ10年で2回ほどでそれほど頻繁に観察できていません。アユやマルタのように産卵や生活が目的ではないので、河口で餌を漁りながらどんどん上流に上がってきてしまい、淡水に順応する機能を持っているので、気が付いたら清瀬まで来てしまったというのが真実かもしれません。

ボラの美味しい時期は冬で、大きなものは刺身や鍋料理で、小さな物は焼き魚やフライなどで食べられています。

—植栽地だより—

小さな林の物語 <生き物の憩いの場>

宮澤 とよ美

15年前、これまで自然保護団体として経験したことの無い、農家さんの畑地に植栽をして、都の保全緑地A地区とせせらぎ公園を緑でつなぐ、空堀川の河畔林の連続性として幼木を植栽する。そんな緑化を願い何度か地主さん宅に伺う。幸い地主さんのご好意で夢



矢島氏・増田氏のご協力で植栽地用意ができませんでした。

植栽のその日は、東日本大震災の翌年3月10日でした。冷たい氷雨の中、四中有志の生徒さん、今はいらっしゃらない中澤副市長、都の西村課長、清瀬市議有志の皆様・自然を守る会有志の皆様・流連の有志の皆様、特にロータリークラブ様からはたくさんのご支援をいただき

きました。地主さんと植栽指導の植木屋さんをご参加くださり、最初に3:11の大震災犠牲者に黙とうと、義援金のカンパがあり作業が始まりました。



作業後、甘酒の差し入れ、熱々の芋煮を囲んで、皆様と語り合えたことはしみじみと心にのこります。この植栽地には、バス停のフェンスにマルバロウソウのツルがあり、花をつけています。(右)それから水道の立つ近辺に群生していたのが、下向きに葉脇から1つずつ黄色い花をつけるカラスノゴマ(アオイ科)で、現在のAPG分類体系で分類されるようになり、これま



ではシナノキ科ですが (APG) ではアオイ科に含まれます。



ヘクソカズラ



ヤブガラシ

またヤブガラシ(ブドール科)やヘクソカズラ(アカネ科)はいまだに強敵で、



カラスノゴマ



ブドウスズメの幼虫とシモフリスズメの幼虫



こと、林床を敷き詰めるように這いまわ

ります。夏にはこれらの草や樹木を食草とする虫、スズメ蛾の幼虫等々ついて



イラガの幼虫

みんなで食べますが、強い草で枯れてしま

うようなことはありません。夏の植栽地は虫の宝庫です。スズメ蛾のように大きくても手に取った時害のない虫が多いのですが、イラガの仲間はちょっと触れただけでも刺され数日痛みます。

清瀬市の国蝶オオムラサキは昭和 30 年頃に消滅、数年前から、狭山丘陵でオオムラサキが確認とのこと、何とかそのオオムラサキを清瀬にも呼び込みたいと、食草であるエノキと、樹液を出すクヌギ、コナラを植えました。翌年清瀬市では、かつて生息していた国蝶オオムラサキを、雑木林の環境整備の象徴として、飼育事業を始め、2012 年



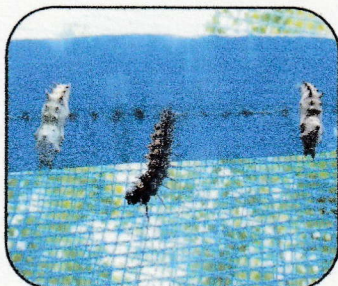
オオムラサキ 3 齢幼虫と



成虫

に日の出町の廃棄物処分場で育った幼虫を譲り受け、それを植栽地のエノキにネットをかけ、その中で幼虫から蛹までを飼育、蛹になった順に伊藤公園に建てた大きなゲイジの中に運んで羽化をさせ、国蝶オオムラサキの舞う姿を市民に公開します。

オオムラサキの蛹を運んだあとの飼育用網の上には、エノキを食草とするテングチョウ・ヒオドシチョウ等の蛹が取り残され羽化します。間を見てはそれら蝶を開放しに行きます。



ヒオドシチョウの幼虫と蛹



蛹



ヒオドシチョウの羽化



ヒオドシチョウ

上の 3 枚の写真は、飼育用網の上部に蛹になってぶら下がるヒオドシチョウの幼虫とサナギです。左から 3 枚目は羽化して間なしのヒオドシチョウ (タテハチョウの仲間です) が、表の羽は右下のオレンジに黒斑で美しいのですが、閉じている羽の裏は暗く地味です。よく見ると羽裏も美しい色の重なりです。

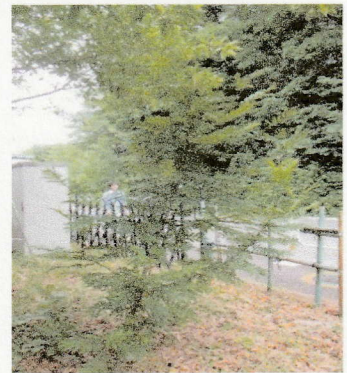
網のかからないエノキからも様々な虫が、野鳥のえさから免れ飛び立ちます。時には新緑の美しい林の中をひらひらと舞うアカボシゴマダラの春型は白い羽で優雅に舞い、とても魅力的です。このアカボシゴマダラは、意図的な放蝶または飼育個体の逃げ出しがきっかけとか、生態系の破壊につながるほど大変なことで、特定外来生物に指定され、許可のない移動や飼育は禁止されています。が清瀬のどこに行っても目に入る蝶になって久しいです。

丁度 10 年ほどして、伊藤公園の近くでエノキが用意されると同時に、植栽地の網をかけたエノキも網を破って枝を伸ばし、カマキリやトカゲ、野鳥が潜り込むようになり飼育場としての役割を終えました。これから 100 年 200 年と続くことを願うこの林に力強く命をつなぐ清瀬生まれのオオムラサキが飛び交うことを夢見ます。



ナンキンハゼ

植栽してしばらくは、林床に十分に日光が当たり、春はカラスノエンドウを主体とし、夏にイヌムギやエノコログサなどイネ科の草本が繁茂しました。間もなく草の合間から自生木があちらこちらから伸び出し、四小校庭のナンキンハゼの種子はいち早くこの地で成長、植栽木を追い越して花を咲かせ結実します。植栽する時、自生木のことは考えられず、切り捨てることも叉心が痛み、柵の近くに移植をし、エゴノキ・コブシ・エノキは伐採。イヌザクラは中側に向かう 1 枝残して剪定。林内にはオオシマザラを、河川に面する斜面にザイフリボク・ウワミズザクラ・オニグルミ等が守られています。自動車道の近くにシナノクルミ（クルミ科）が生え、どんな果実をつけるのか楽しみに待つも一向に花もつけず、大きくなり伐採。まもなく多くの萌芽、やっぱりその 1 本を残し成長を待って果実を目にしたい。



シナノクルミ



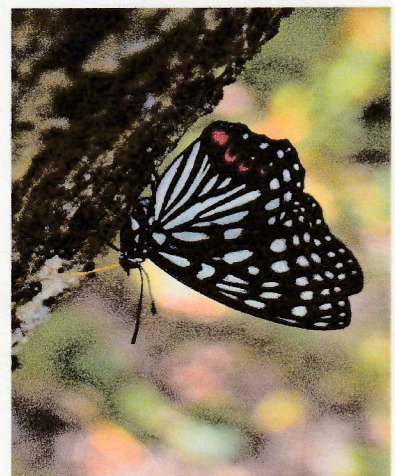
脱皮間もないニイニイゼミ

植栽地を見つめて来たこの十数年、多くの生き物が運び込む種子や微生物、風もまた同様、その土地に合ったものはすくすく成長、育てる余地のないものは断腸の思いで伐採、それでも後から後から出てきて伸びようとします。

夏になればニイニイゼミがそれぞれの木に泥の付いた抜け殻を残して登ってゆきます。

清瀬の自然は、昔から農家さんに守られて、美しい雑木林があり植生があります。植栽地もまだ十数年、それでも数えきれないほどの虫の仲間、植物の仲間、野鳥のねぐらとなり、多くの生態系を生み出しています。

清瀬市の生き物の多様性を考えた時、河川も同様、雑木林と一体となって、より豊かな自然環境を形成できると思います。美しい緑と清流、河川独特の植生、そして魚の潜れることのできる水際の草、意識的に工夫をする事により清瀬市のより調和した、重厚な自然環境の創出を望みます。



樹液を吸うアカボシゴマダラ

◆令和7年10月から令和8年3月までの活動記録◆

【令和7年10月の活動事項】

2日：幹事会：戸塚・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

5日：植栽地管理作業：田島・宮澤・荒幡

参加者：会員は菅原さん・西山さんご家族2名・熊谷さん。

下草刈りと落ち枝拾い、道路側に出た草や枝の整備を実施した。リヤカーの歪んだ車輪を交換した。



交換した車輪



大量の雑草を処理



整備した道路側

21日：外来種駆除：田島・宮澤・柏崎・新井・荒幡

参加者：一般から1名、市役所から3名参加して頂いた。人数が少ないので定置網を設置して、そこへ魚を追いつめ込む方法で実施し、他に手網で岸辺の生物をガサガサ方式で採集した。捕獲生物：ブラックバス・ブルーギル・スジエビの稚エビ・ハグロトンボの稚ヤゴ・アメリカザリガニ。



ブルーギルとブラックバス



定置網に追い込んでいる様子



稚エビと稚ヤゴ

今回の結果：5種49尾を採集した。※コイを確認する。

	10 cm	9 cm	8 cm	7 cm	6 cm	5 cm	4 cm	3 cm	2 cm	1 cm	計測外
オオクチバス		1			1						
ブルーギル	1	2	2		4	10	2	1			15
アメリカザリガニ					2	2					
スジエビ										3	
ハグロトンボヤゴ										3	

【11月の活動事項】

2日：柳瀬川清掃：柏崎・新井・柳瀬・小西・星野玲子・荒幡

参加者：会員は中村吉成さんご家族・星野輝子さん・西山さん親子・中村和輝さん。
一般からは5名の方々に参加して頂いた。今年から秋の一斉清掃は無くなったと聞く、今後は会独自でゴミの処理などを実施しなくてはいけなくなる。
ゴミの総量は約450Lだった。



ペットボトル 40L (9%)



缶類 150L (33%)



ビニール類 60L (13%)



トレイ類 30L (7%)



工事ゴミ 50L (11%)



その他 120L (27%)

4日：どろんこ保育園観察会：田島・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

会員からは、中村吉成さん・西山さん親子が参加、手伝って頂く。

保育園側からは、先生2名園児15名が参加した。

事前に、中里地域市民センター前で生物を採集して、金山調節池からの排水口がある右岸側の親水階段の所で、水槽・ふれあい水槽を準備して園児たちの観察会を実施した。採集した生物：ナマズ・カワムツ・ドジョウ・ヨシノボリの仲間・カワリヌマエビ・スジエビ・コヤマトンボのヤゴ・カゲロウの仲間・シマイシビル。



2班に分かれてふれあい体験



怖がる子もなく魚やエビを触っていました



5 日 : 柳瀬川・空堀川流域連絡会に参加：宮澤・荒幡

11 期のメンバー顔合わせ自己紹介後、10 期活動のまとめの報告を受け、今後の進め方について議論した。今年度の工事説明を受ける。

6 日 : 幹事会開催：田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

23 日 : 空堀川清掃：田島・宮澤・柳瀬・荒幡

参加者：会員は古谷さん。一般からは 3 名・一家族 4 名の方々に参加して頂いた。
上流は西武線鉄橋から下流の新合流点までを清掃する。高水敷に実生木がたくさん生えてきたので、右岸三郷橋までの処理を実施する。穴が開いて石が埋め込まれているコンクリートブロックが敷かれているので作業は大変だった。
ゴミの総量は約 410 L だった。



ペットボトル 60L (15%)



缶類 30L (7%)



ビニール類 40L (10%)



トレイ類 30L (7%)



工事ゴミ 90L (22%)



その他 160L (39%)

27 日 : 環境・川まつり実行委員会出席：柳瀬

来年 7 月 25 日（土）に環境・川まつりを実施することに決定する。

【12 月の活動事項】

4 日 : 幹事会開催：田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

7 日 : 植栽地管理：戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

参加者：会員は古谷さん、高橋さん、西山さん親子、中村さん親子、大室さん親子、中村和輝さん、星野輝子さん・玲子さん・友野さん。一般からは 1 名の方に参加して頂いた。道路に迫っているコナラを一本伐採・実生木の除去・道路に落ちている

落ち葉はき等を実施した。最後にすいとん鍋を作り今年の納会とした。



クヌギを一本伐採



歩道に積もっていた落ち葉を掃除



美味しかったすいとん



子供たちも参加

【令和8年1月の活動事項】

8日：幹事会開催：田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

17日：ウエルカム交流会参加：田島・戸塚・宮澤・新井・柳瀬・荒幡

活動をアピールするイベントに参加する。参加者：会員は中村吉成さん。午前中に展示生物の採集を実施し、カワムツの幼魚13匹・カワリヌマエビ3匹とクレソンを採集する。会場には、パネル・水槽を展示し、ブースに訪れた来場者に会の運営を説明した。入会者が1名あった。



会場全景



展示ブース



展示した水槽と生物

23日：柳瀬川・空堀川流域連絡会に出席：宮澤・荒幡

清瀬市・東村山市・東大和市・武蔵村山市の工事現場と主な施設の視察に参加する。

【2月の活動事項】

5日：幹事会開催：田島・戸塚・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

9日：工事説明会に参加：宮澤・柏崎・新井・荒幡

参加者は市職員2名。東京都北部建設事務所・工事課2名、河川工事コーディネーター2名から、前原橋落差工工事の計画について説明を受け、工事について意見交換する。

12日：チラシの掲示：田島・宮澤・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

3/15日（日）実施予定の空堀川河川清掃のチラシを、各自最寄りの市内掲示板に掲示する。一部小学校・幼稚園・市民活動センターにも掲示して頂いた。

【3月の活動事項】

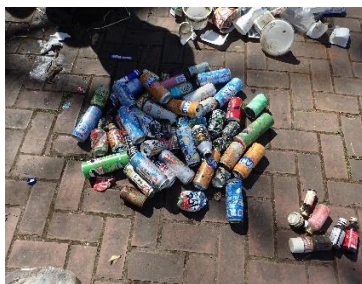
5日：幹事会：田島・戸塚・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

15日：空堀川河川清掃：田島・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

参加者は、会員の古谷さん・吉田さん・中村和輝さん・熊谷さん・西山祥恵さん・星野玲子さん、一般からは、4名でした。清掃範囲は上流柳原橋から下流は清瀬橋まで、一部の木の剪定も実施した。集めたゴミの総量（木は別）は、760Lでした。



ペットボトル 60L (8%)



缶類 40L (5%)



ビニール類 200L (26%)



トレイ類 60L (8%)



工事ゴミ 160L (21%)



その他 240L (32%)

30日：会誌・総会資料作成作業：田島・戸塚・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

総会資料の印刷・製本、会誌の製本を実施し、配布する。

◆今後の主な行事予定◆

- ・4月25日（土）：総会開催（清瀬市民活動センター） 14:00 開催
- ・5月10日（日）：植栽地の樹木管理（明治薬科大学前・三郷橋） 9:00 集合
- ・5月31日（日）：市内一斉清掃・柳瀬川河川清掃（金山調節池排水口対岸）
9:00 集合
- ・6月7日（日）：全国一斉水質調査（事務局又はお近くの幹事にお尋ねください）
- ・6月28日（日）：空堀川河川清掃（梅坂橋） 9:00 集合

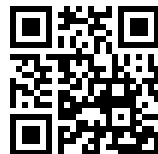
◆ご案内◆

川づくり・清瀬の会活動の様子、予定など、公式 Facebook ページや公式 X(Twitter)でお知らせしています。ぜひご覧ください。お持ちのスマホをカメラにさせていただき、かざせば読み込みます。パソコンお使いの場合は「川づくり・清瀬の会 Facebook」「川づくり・清瀬の会公式 Twitter」で検索してください。

活動予定につきましては、コミュニティ FM 放送局 TOKYO854 くるめら (85.4MHz) 『ゆったり清瀬』（毎週月曜日 12:00-12:55 再放送毎週火曜日 06:00-06:55）でも告知しております。



公式 Facebook ページ QR コード



公式 X(Twitter) QR コード

◆事務局だより◆

2025 年度は大きな事故もなく、予定した活動はすべて実施することができました。

2026 年度は、例年実施している川清掃・生物調査・河畔林の育成・水質調査などに加え、小学生・保育園生・一般の方々を対象にした生物観察会に力を入れて実施していきたいと考えています。

河川工事は、前原橋の落差工区間を予定しています。会誌にも載せましたが、過去 6 年間の工事を検証し、不具合の改修・改善の提案書を管理者へ提出しました。これからも、河川管理者と議論を重ね時間はかかりますが、昔のような多自然豊かな川に育てていきたいと考えています。

今後も、会員の皆様の増々のご支援と、ご協力をよろしくお願いいたします。

川づくり・清瀬の会

TEL : 042-493-7864 事務局：荒幡経夫